

平成21年10月 せたな町立若松小学校学校通信

ものを与え過ぎていませんか。

教頭 佐々木 朗

お店にはありとあらゆる商品が並ぶ、物質的にはとても豊かな現代社会ですが、皆さんの家庭では、おやつ、ゲーム、遊び道具など、子どもにほしいままに与えていることはないでしょうか。

フランスのルソーという思想家はその著書「エミール」の中で「子どもをだめにするのは簡単である。ほしがるものは何でも与えることである。」と述べています。

戦後生まれが大半を占めるようになった今、戦争中の食べるものない貧しい時代が語られることは少なくなりました。しかし、その時代は、わずかな食べ物を分け与えるなど、今よりも心は豊かに生きていたのではないかと思ってしまう。物質的に豊かになったことで、日本は失ったものの方が大きいような気さえします。

人の幸福は、経済力とは全く違う次元であると思います。人は愛をいっぱいもらって育つと、愛をいっぱいみんなに与える人となり、それが人間の幸福というものだと思います。

子どもにもものを与えること全てを否定するものではありませんが、与えることによって不幸になることもよく考えながら、愛を持って子どもたちを育てていってほしいと思います。